

シンポジウムの種

第5号 8月2日発行
宮城学院女子大学学芸員課程
2023年度シンポジウム実行委員会
連絡先 人間文化学科副手室
TLE 022-277-6166

遂にシンポジウムの種も本号で最終号になります！

前号に引き続き博物館実習Ⅰの様子 in 木村先生組の紹介、そして2024年度実習生となる皆さんに向けたメッセージを掲載します！

博物館実習Ⅰの授業の様子 in 木村組

木村組では、遺跡の発掘調査・出土資料の扱い方を学んでいます。実際に発掘された本物の土器に触れ、実測の方法を教えてくださいました。実測器具を使い簡単な略測も行い、土器の模様の観察も行いました。また、史跡 陸奥国分寺跡の巡検も行いました。ガイダンス施設内で国分寺の歴史や、出土した瓦、文字の書かれた墨書土器の見学に加え、門や金堂跡、そして七重塔跡などを見て回りながら建築様式等を学びました。



～2024年度実習生のみなさんへ～

今年度、博物館実習Ⅰの写真実習では少しの制限はありながらも、普段触れることのないフィルムカメラでの撮影をさせていただくことが出来ました。来年度からは、デジタルカメラでの実習が検討されているそうです。デジタルカメラになることで、撮影の幅が広がるのでは？と感じています。普段スマホで撮る時よりも、より何を見せたいか、どうしたら意図するメッセージを与えられるかと、考えることがとても多いです。ですがその分、現像されてきたものを見た時の感動も大きいです！楽しみながら実習してほしいです！

ここまで半年間の博物館実習の授業を通して、初めて知ることや初めて触れるものなど、ここでしかできない経験を多く積むことができたと感じています。また、博物館実習の授業、シンポジウムに向けての活動を通して、様々な人との関わりの大ささを感じました。ぜひ、普段関わることのできない方々、触れることのない体験を大事にして、実習を楽しんでほしいです！

編集後記

シンポジウムの種は、本号で最終号を迎えます。

写真展に始まり、7月のシンポジウム終了まで、計5号の発行となりました。

特に、来年博物館実習、シンポジウムを開催する側となる皆さまには、イメージを膨らませていただけるようにと考えながら作成してまいりました。本号までお読みいただき、誠にありがとうございました！最後になりますが、『シンポジウムの種』作成にあたり、ご協力くださいました先生方に心より感謝申し上げます。（石戸・小野寺・梶原・鈴木・藤澤）